民俳歌柳

俳

入選

毎月20日で締め切り、締め切り日 の**翌々月**の広報うつのみやで入選 作品を発表します。

特選

子が数へ母がうなずく木の実かな

さつき3丁目 伊藤 幸[®] 子こ

母と一緒に楽しそうに数える子どもの様子 をポケットに入りきらないほど持ち帰り 特選の選評 裏山に落ちているドングリ

が目に浮かぶ 富安風生の句が思い出された。 「よろこべばしきりに落つる木の実かな

る。

副都心高層ビルを見上げれば 真四角の空が蒼くぬけゆく

下岡本町 高尾 信尚

者はゆっくりと、来た所から続く青空を見 はお構いなく、人は流れて行く。そして作 まいがち、駅前で足を止めがちだが、周り 立った作者。つい、高いビルを見上げてし ●特選の選評 「真四角の空が蒼くぬけゆく」がい 用事があり、 新宿に降り

の間にか失われて、

にかかりはじめる。くびれた細い腰はいつ

特選の選評

中高年になると胴回りが気

短

入選

加茂都紀女



都智





先生

111

柳

入選

会いましょう果たせぬままに大晦日 中岡本町 中なかざわ 智を

ありがとう交わす横断登下校 岩曽町 川_わかっ 室っ 正ま

髷乱るほど張り手を食らふ大相撲

緑2丁目

片嶋

青いない

金木犀の香り漂う秋日差す人影のなき山里に

西2丁目

佐さ藤さ

順り子こ

孫の世話痛い足腰雲がくれ

中戸祭1丁目

阿部

壽美江

どさどさと山慮の壺に曼珠沙華

日の出1丁目

大島ま

康まま

名月やワイン楽しむひとり膳

平松3丁目

伊藤

安

鏡

の中の猫背の我に

清原台1丁目 三木

紋を

胸を張れ背筋伸ばせと叱咤する

梅花藻を川一面に咲かせむと

水面掻き行く守人一人

清原台6丁目

小太刀

節子

かげ口の底にストンと落ちてゆ

城東1丁目

綱ったかれ

光された

野の道を車椅子押す萩の道

不動前2丁目

山。 中。 中。た

ヒロ子

海岸線が迎えてくれる

下田原町

和ゎ 田だ

故郷の無人の駅に降り立てば

佐藤隆久

八先生

型の変化をユーモラスに歌った佳句です。 処へいったのか、確かにあったはずだ。体 い。久しぶりに見るウエストのくびれは何 なかなか元には戻らな 特選

俳歌柳壇の応募方法

- 人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- よがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- ▶毎月20日(消印有効)までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- ●ŴĒŚによる応募も受け付けます。詳しくは、市⊞をご覧ください。



表 3208540 住所・氏名・壇名 宇都宮市役所 作品への思い

ウエストは多分おそらくこの辺り

下田原町

五い十二歳

由美子